

## なしの炭疽病菌による葉枯れ症状（新症状・病原の追加）

令和2年、上川地方の果樹園において、ニホンナシ(品種:「北海早生」)に葉枯れ症状が発生した。同園地内のセイヨウナシには症状は見られなかった。葉には初め褐色の小斑点が生じ、この病斑は徐々に拡大してやがて不整形の大型病斑となり、やがて葉枯れ症状を呈し早期に落葉するため、果実肥大が妨げられるが、果実には病斑は認められなかった。葉の病斑上には黒色小粒点を多数形成し、無色、単胞で長楕円形の分生子(大きさ:9.5~13.5(平均11.8)×3.2~5.6(平均4.4)μm)が多数観察された。28s rRNAの塩基配列解析の結果、本病原菌は*Colletotrichum acutatum*種複合体と同定された。分離菌の接種で原病徴が再現され、接種菌が再分離された。

道内では、*Colletotrichum gloeosporioides* (Penzig) Penzig & Saccardoの完全世代である*Glomerella cingulata* (Stoneman) Spaulding & H. Schrenkによるなし(またはセイヨウナシ)の炭疽病の果実腐敗症状の発生が報告されているが果実のみに発生すると記載されており、葉枯れ症状および*C. acutatum*種複合体による炭疽病の発生は未報告である。

(上川農試)



なしの炭疽病菌による葉枯れ症状（上川農試 長濱 原図）